

7) エストリオール・アルファロール併用療法による骨粗鬆症の治療

谷 啓光 (下越病院産婦人科)
倉林 工 (新潟大学産科婦人科)

目的：1. DEXA 法を使用せずに、DIP 法で骨量減少の診断管理が可能か否か検討する。2. 骨量減少に対するエストリオール・アルファロール・Ca 併用療法の有効性を検討する。方法：1. H4年8月より5年12月までの間、腰痛等症状を持つ婦人に DIP を施行し、年代別推移をみた。ΣGS/D \leq 2.26 の症例には胸腰椎 Xp を撮影した。2. 上記療法による ΣGS/D の推移をみた。一部他の療法もした。結果：計430例に DIP をした。ΣGS/D は56~60才以後有意に低下した。ΣGS/D \leq 2.26 の頻度は46~50才では12.5%なのに、56~60才、61~65才、66~70才、71~75才では、41.0%、54.4%、83.1%、82.9%と増加した。DIP 法の感度は0.93、特異度は0.75、精度は0.92、有効度は1.68であった。

上記治療により ΣGS/D は8%/年と有意に増加した。他の療法でも ΣGS/D の増加ないし増加傾向を認めた。結語：1. ΣGS/D は、従来のDEXA法による報告と同様の動態を示すので、DIP でも骨量減少の管理が可能であると示唆された。2. 上記療法は骨量減少に有効であった。

8) 糖尿病患者の HDL-C

—とくに高 HDL-C 血症と LCAT,
LPL, HTGL, CETP について—

山田 幸男・高沢 哲也 (信楽園病院内科)
岩原由美子 (同 栄養科)
斉藤 康 (山形大学医学部
臨床検査医学講座)

糖尿病患者の血中 HDL-C は低値の人が多いが、高 HDL-C 血症 (100 mg/dl 以上) の人も少なくない。当院の糖尿病外来に通院中の高 HDL-C 血症患者は23名おり、全糖尿病患者の1.5%に相当する。また、他の疾患患者に比べ高 HDL-C 血症の患者の比率が明らかに高いことから、糖尿病という疾患に特異な病態と思われる。

そこで高 HDL-C 血症患者を含む87名の糖尿病患者で HDL 代謝と関連の深い4つの酵素、LCAT (lecithin-cholesterol acyltransferase, レシチンコレステロール・アシル転移酵素)、LPL (lipoprotein lipase, リポ蛋白リパーゼ)、HTGL (hepatic triglyceride lipase, 肝性

リパーゼ)、および CETP (cholesteryl ester transfer protein, コレステロール・エステル転送蛋白) と HDL-C との関係について検討した。その結果、HDL-C は LCAT と HTGL とは有意の負の相関を、また LPL とは正の有意の相関を示した。さらに CETP 値は高 HDL-C 血症の6名の患者のうち5名は極めて低値であった。中でも HDL の逆転送作用にかかわりの大きい HTGL と CETP 値が高 HDL-C 血症患者では低値であることから、HDL-C が高いからといって額面通りには逆転送作用はしていないものと考えられた。

9) 糖尿病患者における低 HDL 血症に対するベザフィブラートの効果

中村 宏志・中村 典雄
中村 隆志 (中村医院)
片桐 尚・吉田比美子
伊藤 正毅 (新潟大学第一内科)

【目的】糖尿病に伴う低 HDL 血症に対しベザフィブラートが改善効果をもたらすかどうかについて検討した。【方法】HDL<40 mg/dl の NIDDM 患者14名 (男性9名、女性5名) にベザフィブラート 200 mg/日を投与し、服用前と1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後の T.C., T.G., HDL, HbA_{1c}, アポ蛋白を測定した。【結果】T.C., T.G. は投与後有意に減少、HDL は有意に増加した。アポ蛋白は A-I, A-II が有意に増加、Bが有意に減少、C-II, C-III, Eは減少傾向を認めた。HDL の増加量は T.G. の減少量と相関 ($\gamma=0.6731$) を認めた。HbA_{1c} は7.4→7.0%と減少を認め、特に男性で7.2→6.5%と著明であった。【結論】① 糖尿病に伴う低 HDL 血症に対し、ベザフィブラートが改善効果をもたらすことが明らかになった。② 上記効果は、T.G. の減少幅が大きい症例ほど顕著であった。③ ベザフィブラートの投与により、HbA_{1c} の改善傾向が認められ、特に男性で著明であった。

10) 中高年婦人の高脂血症とエストロゲンの影響

谷 啓光 (下越病院
産婦人科)
山川 良一 (同 内科)
倉林 工 (新潟大学
産科婦人科)

【目的】1. 中高年婦人の高脂血症に関する疫学調査をする。2. エストロゲン (E) (特に E₃) の脂質に対す

る影響を調べる。【方法】1. 健診受診者男女5,400名の総コレステロール (TC), HDL-コレステロール (HDL-C), LDL-コレステロール (LDL-C), 中性脂肪 (TG) を男女年齢別に比較した。2. Eを投与されている症例の脂質の推移を検討した。高脂血症用剤を投与されている症例は除外した。【結果】1. ~40才では, 男性の TC の年齢別平均値は 177~199 mg/dl の間を推移したのに対して, 女性では 166~187 mg/dl と女性が低値であった。この後50才までは男女間に差はなかった。51才以降男性では 187~200 mg/dl の間を推移したのに対して, 女性では 206~220 mg/dl と高値となった。LDL-C は TC と同様の推移を示した。2. Eを投与した31例 (60.5才,

投与期間10.5ヶ月) の TC は 219 mg/dl から 203 mg/dl に低下し, LDL-C も低下した ($p < 0.01$)。【考察】1. 中高年婦人の高脂血症の実態を明らかにした。2. Eは女性の脂質を改善した。活性の弱い E₃ もこの作用が認められた。

II. 特別講演

「中性脂肪の分解とその調節」

山形大学医学部臨床検査医学講座教授

齋藤 康 先生